

# おじさん！ ストライキについて教えて？



JR 東日本誕生から 30 年 今、ストライキについて考える

私たちの会社「JR 東日本」が発足して間もなく 30 年の節目を迎えます。会社の経営は順調に推移し単体業績をみると、2016 年 3 月期に国鉄民営化後で過去最高の売上高と当期純利益を計上、本年度についても増収減益となっています。

一方で、会社の経営は好調を維持しているものの労使関係の問題は依然として残ったままです。最大労組である東労組は会社発足直後は、その本性を隠し労使協力路線を見せかけていましたがストライキ権をちらつかせたり、36 協定締結を拒否する等、徐々に本性を表し始めました、とりわけ東労組が過激派である革マル派の影響下にあることについては民主党政権時代ですら問題視されていました。

この間、私たちは一貫して明るい未来を創り出すため自らの身を賭して警鐘を乱打し続けてきました。私たちの積極果敢な行動は社会を動かし、結果として会社からも労使関係において「労使関係は是々非々で」、「労働組合の違いで差別はしない」などの言葉が発言されるまでになりました。

こうした事に危機感を募らせた過激派革マル派系労働者は自らの保身を図るかのように労使の緊張関係を作り上げています。ちまたでは仙台や東京における駅の外注化撤回闘争、さらに今回は自らが会社との間で議論し締結した「新しい人事・賃金制度」否定闘争などがその例だといわれています。特に「新しい人事・賃金制度」否定闘争では一昨年春闘以降実際には会社から賃上げ回答を受け妥結しておきながら、その一方で「格差賃金」、「格差ペア」と言い換え、会社との対決姿勢を強める方向に組合員を誘導しています。さらに今回は「格差ペア」を打ち破る戦術として「団体交渉だけの戦術では限界性がある」として「スト権を確立してその組織力を背景にして団体交渉を押し上げていく」としかつてはちらつかせるにとどめたストを実際に行うまでに進めてきています。こうした状況を見た時、私たちの危惧はまさに先見性あるものであったと言えます。この様な状況では JR 東日本は社会やお客様の信頼を失い企業として立ち行かなくなってしまう。企業 30 年説にある通り問題の先送りや、エゴ、無責任な行為こそが企業の存続を阻むのだと考えます。今の状況を考えた時、仲間の皆さんが、とりわけ若い人たちがストライキについて迷ったとき、悩んだ時アドバイスをしてあげられるのは実際に国鉄時代ストを経験し、またその事社会の信頼を失う事を経験した者ではないかと思えます。自らの考えを、自らの言葉で伝えられるよう考えを整理できたらと思えます。討議資料について仲間で話し合っただけで戴ければと思えます。